

齊藤 和也 教授年譜**1953年**（昭和28年）

11月18日 北海道小樽市に生まれる

1972年（昭和47年）

4月 北海道大学文類入学

1977年（昭和52年）

4月 北海道大学大学院文学研究科修士課程入学

1979年（昭和54年）

4月 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程入学

1982年（昭和57年）

3月31日 北海道大学大学院文学研究科博士後期課程退学

7月1日 北海道大学助手文学部に採用

1985年（昭和60年）

7月1日 香川大学助手教育学部に採用

1986年（昭和61年）

10月1日 香川大学助教授教育学部に昇任

1995年（平成7年）

4月1日 香川大学助教授経済学部配置換

1999年（平成11年）

6月1日 香川大学教授経済学部昇任

2004年（平成16年）

4月1日 国立大学法人香川大学経済学部教授に任命

2011年（平成23年）

4月1日 国立大学法人香川大学アーツ・サイエンス研究院教授に配置換

2013年（平成25年）

4月1日 国立大学法人香川大学人文社会科学系教授に配置換

2019年（平成31年）

3月31日 国立大学法人香川大学退職

齊藤 和也 教授著作目録

I. 研究業績

A. 論説

1. 「アリストテレス『自然学』I巻II巻における質料概念の再検討」, 『古代哲学研究』古代哲学会, 第12号, 1980年5月, 23-31頁.
2. 「アリストテレスにおける質料の位相」, 『哲学』(北海道大学哲学会), 第16号, 1980年7月, 26-43頁.
3. 「テオフラストスの生涯と著作(1)—— Diogenes Laertius V巻36-57節の訳と注——」, 『北海道大学文学部紀要』33ノ1, 1984年9月, 1-34頁.
4. 「テオフラストスの生涯と著作(2)—— Diogenes Laertius V巻42-50節における著作目録への注釈——」, 『北海道大学文学部紀要』34ノ1, 1985年11月, 1-45頁.
5. 「ロゴスと実体」, 『哲學』(日本哲学会), 第33号, 1983年5月, 115-125頁.
6. 「倫理的徳とフロネーシス」, 『哲学』(北海道大学哲学会), 第20/21合併号, 1985年4月, 207-228頁.
7. 「エレンコスのめざすもの」, 『香川大学一般教育研究』, 第33号, 1988年3月, 39-53頁.
8. 「行為と使用~『エウデモス倫理学』第2巻1章における使用の概念」, 『古代哲学研究』(古代哲学会), 第25号, 1993年5月, 1-11頁.
9. 「アリストテレスにおける友愛と自知」, 『関西哲学会年報』, 第4号, 1996年6月, 45-55頁.
10. 「アリストテレスの感覚理論について」, 『香川大学経済論叢』, 第70巻第4号, 1998年3月, 55-82頁.
11. 「アリストテレスのファンタシアー概念について」, 『香川大学経済論叢』, 第71巻第4号, 1999年3月, 149-172頁.
12. 「『エウデモス倫理学』における友愛と自知」, 『香川大学経済論叢』, 第72巻第1号, 1999年6月, 167-186頁.
13. 「ファンタシアー概念の再検討」, 『哲学』(北海道大学哲学会), 第37号, 2001年7月, 1-18頁.
14. 「財獲得術の自然性について」, 『香川大学経済学部研究年報』, 第43号, 2003年3月, 43-62頁.

15. 「共感と道徳」, 『香川大学生涯学習センター研究報告』, 第10号, 2005年3月, 95-110頁.
16. 「ポリスの自然性」, 『香川大学経済論叢』, 第78巻第2号, 2005年9月, 3-31頁.
17. 「アリストテレスにおける「中間の国制」」, 『香川大学経済論叢』, 第79巻4号, 2007年3月, 37-60頁.
18. 「善き人の徳と善き市民の徳」, 『香川大学経済論叢』, 第83巻第4号, 2011年3月, 5-28頁.
19. 「アリストテレスにおける感覚の問題」, 『ギリシア哲学セミナー論集』, Vol. XVI, 2019年3月, 1-14頁.

B. 研究ノート

1. 「国制の多数性について」, 『香川大学経済論叢』, 第78巻第3号, 2005年12月, 135-153.
2. 国制の諸制度について, 『香川大学経済論叢』, 第80巻第4号, 2008年3月, 135-148.
3. アンティゴネー像の解釈について, 『香川大学生涯学習教育研究センター研究報告』, 第14号, 2009年3月, 47-60.
4. 『ポリティカ』第3巻における「多数者」の政治的資格について, 『香川大学経済論叢』, 第82巻第4号, 2010年3月, 321-337頁.
5. 最善の国制における最善の生活, 『香川大学経済論叢』, 第85巻第4号, 2013年3月, 337-355頁.
6. アリストテレスの理想国論における教育の意義, 『香川大学経済論叢』, 第87巻第4号, 2015年3月, 321-336頁.
7. アリストテレスにおける閑暇の概念について, 『香川大学経済論叢』, 第88巻第4号, 2016年3月, 159-173頁.

C. 学会・学術研究集会報告等

報告

1. 「アリストテレスにおける質料の概念」, 北海道大学哲学会研究発表会(1979年度・冬), 1979年12月.
2. 「『エウデモス倫理学』第2巻1章における使用の概念」, 古代哲学会(メ

トドス談話会) 1993年7月.

3. 「アリストテレスにおける友愛と自知」, 第48回関西哲学会, 1995年10月.
4. 「ファンタシアー概念の再検討」, 北海道大学哲学会研究発表会 (2000年度・冬), 2000年12月.
5. 「アリストテレスにおける感覚の問題」, 第22回ギリシア哲学セミナー, 2018年9月.